



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年06月15日 第1271「週刊五十嵐レポート」

中国のショッピングモール

中国北京訪問の第2弾。ショッピングモールへ行ってみた。1階のフロアにEVメーカーのショールームが立ち並ぶ光景を見た。「理想」「長城」「ファーウェイ」「小米」「嵐図」「楽道」の6社。まるでアパレル店やカフェのように出店している。日本人の私から見ると不思議に見えるが、中国では普通に合理的な販売方法らしい。

昔は郊外で販売していた。しかしEV時代になると、1. スマホ感覚で比較する。2. 家族で買い物中に見る。3. 試乗予約はスマホで行う。4. 購入手続きもデジタル化。販売方法が大きく変わった。

中国の若い夫婦は、「今日はモールで映画を見て、食事をして、ついでにEVを見よう」という感覚。そのためメーカーは人通りの多い1階に出店する。

日本人は車は「機械製品」。中国は、「ソフトウェアとAIが車の価値を決める」という発想がある。EV→AIカー→自動運転が一つの流れになっている。車は走るスマートフォンという考えが主流になってきている。中国は「EV」「AI」「自動運転」「スマートフォン」が融合した世界。はたして日本の自動車会社は太刀打ちできるのだろうか。

中国の強みは、1. 電池 2. ソフトウェア 3. 通信 4. AI 5. 製造スピードで世界トップクラス。小米はスマホを作る感覚で車を開発。新機能の更新もスマホ並みに早い。

日本の強みは「ハイブリット」。世界の多くの国では、1. 充電設備不足 2. 電力不足 3. 寒冷地 4. 長距離移動などの事情がある。明日から全部EVにはならない。東南アジア、アフリカ、中南米では特にそうである。そして「信頼性」。1. 15年乗れる 2. 30万Km走れる 耐久性。

但し、車の価値は、「エンジン」「足回り」から「AI」「ソフトウェア」「自動運転」へ移行している。「エンジン性能」より「認識能力」の方が重要になった。

日本メーカーとして、1. ソフトウェア企業との提携 2. 自動運転を急ぐ 3. 得意分野に集中 商用車、トラック、建設機械、ハイブリットなど。いわゆる中国と同じ土俵で相撲を取らないということ。

ちょっと
気になる出来事

6月9日付日経新聞夕刊に「暗記、コツは音読」という記事。

人は息を吐いているときに効率良く暗記ができるとの研究結果を兵庫県医大などのチームが英科学誌に発表した。

暗記したときの呼吸の仕方によって思い出す速さが変わった。チームは、息を吐く動作が含まれる「音読」が効果的だとし「英単語などを声を出して覚える方法は理にかなっている」

音読は黙読より記憶に残りやすいことが知られている。音読すると、1. 目で見る（視覚）2. 声を出す（運動）3. 自分の声を聞く（聴覚）という複数の感覚を同時に使うため。

声を出すときは自然に息を吐きます。息をゆっくり吐くと副交感神経が働きやすくなり、緊張が和らぎ、集中しやすくなる。逆に息を止めたり、浅い呼吸になったりすると、脳はストレス状態になりやすくなる。

外国語習得には、例文を声に出して読む。シャドーイングする。覚えたい文を何度も音読する。読んでいるうちに覚えてしまう。

声を出して覚えよう。



一口メモ
知識

民心の掌握

政治家が日頃から正しい行動をしていれば、国民に命令など出さなくたって社会秩序は保てるが、政治家がデタラメな行為をしていたんでは、どんなに厳しく命令したって国民はついてこないよ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

